

2023 年 4 月 13 日

**安田倉庫の総合物流情報システムのモダナイゼーションを日本 IBM とレッドハットが Red Hat OpenShift Service on AWS を活用し支援**

**～お客様ごとに異なる商品・業務特性への企業の対応力を強化～**

安田倉庫株式会社  
日本アイ・ビー・エム株式会社  
レッドハット株式会社

安田倉庫株式会社(代表取締役社長 藤井 信行、以下 安田倉庫)と日本アイ・ビー・エム株式会社(代表取締役社長 山口 明夫、以下日本 IBM)、レッドハット株式会社(代表取締役社長 岡 玄樹、以下レッドハット)は、安田倉庫の総合物流サービス事業のデジタル・トランスフォーメーション (DX)を支える「総合物流情報システム」において、[Red Hat OpenShift Service on AWS](#) を活用したハイブリッド・クラウド環境でモダナイゼーションが実現されたシステムを 2023 年 2 月に稼働させたことを、発表しました。

日本 IBM が、モダナイゼーションのロードマップ策定から、概念検証 (PoC) による実現性の確認、安田倉庫の基幹システムで利用している IBM i とレッドハットとアマゾン ウェブ サービス (AWS) が共同で運営するターンキーアプリケーションプラットフォーム Red Hat OpenShift Service on AWS を基盤とするコンテナ技術と、業務を部品化したマイクロサービスを適用した基幹システムのモダナイゼーションを支援しました。安田倉庫グループは、国内での労働力不足等を背景にした AI・ロボティクス等新技術の活用促進や、ワークスタイル・ライフスタイルの多様化など、変化の激しい事業環境を踏まえ、お客様のニーズに柔軟に対応することが求められています。そこで、[「長期ビジョン 2030」とそれを実現するための中期経営計画「変わらず、変える。YASDA Next Challenge 2024」](#)を策定し、物流事業において付加価値の高いロジスティクス・サービスの提供による取引拡大や物流施設の増強など事業基盤の強化を図るなど、事業拡大に向けたグループ経営インフラの強化に取り組んでいます。

この度 Red Hat OpenShift Service on AWS 上に稼働した「次世代総合物流情報システム」は、個別のお客様の商品特性や業務特性に対応した機能の提供スピードを向上させる同時に、新しいサービスを実現するための最新技術を活用することで、付加価値の高いサービスを継続的に提供することが可能になります。また、基幹システムの段階的なモダナイゼーションの最初のステップとして、インターネットを経由したお客様からの入出庫指示や作業状況などの物流情報をリアルタイムでお客様と共有し、さらに各倉庫現場での作業状況の全社レベルでの可視化や、PC、ハンディターミナル、スマートフォンなどのデバイスの活用により、業務のデジタル化と効率化を実現しています。

さらに、お客様ごとに特性の異なる商品や、入出庫に伴う固有業務への対応を容易にするため、安田倉庫は Red Hat OpenShift Service on AWS を通してマイクロサービスを適用することで、最適化した物流サービスを短期間で提供すると共に、現行システムの課題の1つであるプログラム資産の肥大化を抑制することを目指しています。

なお、当システムでは部品化したマイクロサービスの実行基盤として Red Hat OpenShift Service on AWS を採用し、基幹業務に求められる高い可用性と多様な稼働環境の効率的な運用/管理を実現しています。また、マイクロサービスが適用された業務ロジックの再利用に加えて、CI/CD 環境の整備により開発、テスト、デプロイの自動化と効率化を行うことで、アプリケーション開発プロセス全体のスピード向上を実現しています。

今後は、IBM i 上で稼働している業務の中でビジネス環境の変化に追従する必要性の高い業務領域を段階的に Red Hat OpenShift Service on AWS 上に移行していくことで、プラットフォームの管理・サポート・更新をレッドハットと AWS 双方のエキスパートが一貫して行うとともに、新しい技術を積極的に採用し活用することで、サービスの高度化を図っていく予定です。

安田倉庫では、Red Hat OpenShift Service on AWS 上に稼働した「次世代総合物流情報システム」により、お客様のニーズに柔軟に対応しつつ、付加価値の高いサービスを持続的に提供することを可能とし、世

界に誇れる YASDA ブランドと革新的テクノロジーの融合で全てのステークホルダーの期待を超える企業グループを目指します。

以上

#### 本件に関する報道関係お問い合わせ先

安田倉庫株式会社 業務部 経営企画グループ TEL:03-3452-7316

日本アイ・ビー・エム株式会社 広報 TEL:03-3808-5120

レッドハット株式会社 広報 TEL:03-4590-7472

#### 安田倉庫株式会社について

安田倉庫株式会社は 1919 年の創立以来、倉庫業を中核として物流事業を首都圏から全国に展開し、さらにお客様のニーズにお応えすべくアジアを中心に海外へとネットワークを拡げてまいりました。また早くから不動産事業にも力を入れ、両事業の活動を通じ社会の豊かさと夢の実現の為に努力を続け今日に至っております。

安田倉庫グループでは更なる飛躍に向けた事業体制の構築を図るべく、2030 年のあるべき姿を描いた「長期ビジョン 2030」を策定し「世界に誇れる YASDA ブランドと革新的テクノロジーの融合で全てのステークホルダーの期待を超える企業グループを目指す」とことと致しました。

また、2022 年度からの 3 年間を対象とする中期経営計画「変わらず、変える。YASDA Next Challenge 2024」において「DX の基盤としての情報システム高度化」を成長戦略の重要な柱と位置付けております。

安田倉庫に関する詳しい情報は、<https://www.yasuda-soko.co.jp> をご覧ください。

#### 日本アイ・ビー・エム株式会社について

日本アイ・ビー・エム株式会社は、世界 175 カ国以上でビジネスを展開する IBM コーポレーションの日本人で、基礎研究をはじめ、ビジネス・コンサルティングから、IT システムの構築、保守まで一貫したサービスの提供を通じて、お客様の企業変革やデジタル・トランスフォーメーションを支援しています。詳細については、<https://www.ibm.com/jp-ja/> をご参照ください。

#### レッドハット株式会社について

エンタープライズ向けオープンソースソフトウェア・ソリューションのプロバイダーとして世界をリードする Red Hat は、コミュニティとの協業により高い信頼性と性能を備える Linux、ハイブリッドクラウド、コンテナ、Kubernetes などのテクノロジーを提供しています。お客様の新規および既存の IT アプリケーションの統合、クラウドネイティブ・アプリケーションの開発、業界をリードする当社のオペレーティング・システムによる標準化、および複雑な環境の自動化/セキュリティ確保/管理をお手伝いします。受賞歴を誇るサポート、トレーニング、およびコンサルティング・サービスにより、Red Hat はフォーチュン 500 企業に対する信頼すべきアドバイザーとなっています。クラウドプロバイダー、システムインテグレーター、アプリケーションベンダー、お客様、およびオープンソース・コミュニティの戦略的パートナーとして、デジタルの未来に備えるための準備を支援します。

IBM、IBM ロゴ、ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp.の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、[http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml\(US\)](http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml(US)) をご覧ください。

Red Hat、Red Hat logo および OpenShift は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc.およびその子会社の商標または登録商標です。